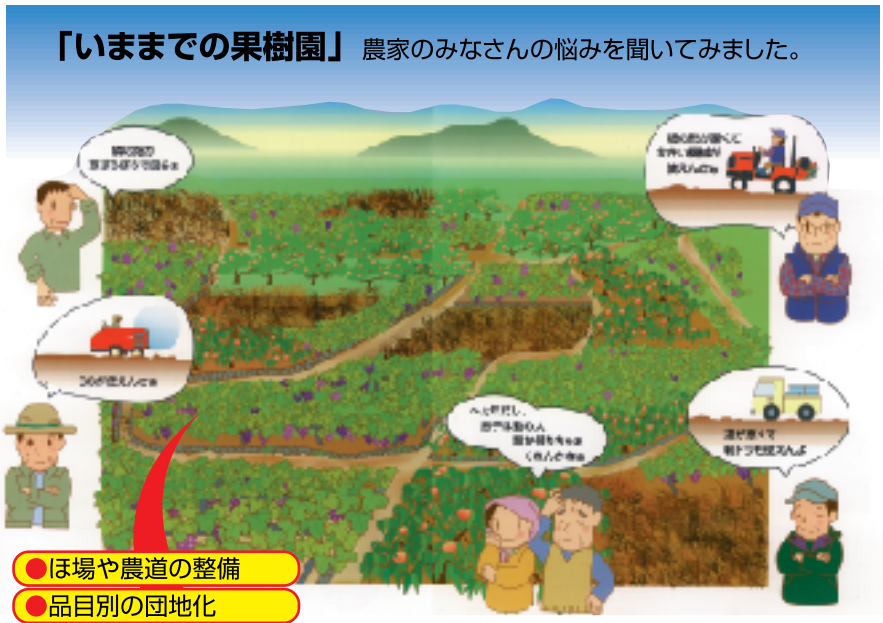
Yamanashi Agricultural Extension Service Information

山梨県普及センターだより

No.2
平成20年
9月30日発行

編集／発行●山梨県総合農業技術センター
住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105
電話●0551-28-2496　Fax.0551-28-4909
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html
E-mail　sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

果樹産地の強化を目指して



●ほ場や農道の整備
●品目別の団地化
●担い手への農地の集積

●担い手養成

●現地の確認

「峡東地域普及センター」

●基盤整備後のほ場

峡東地域の果樹生産は、本県の約75%を占めています。しかし、ここ数年急速に兼業化や高齢化が進み、産地維持を図る上で様々な課題を抱えています。

このような中で、力強い果樹産地づくりを進めていくためには、担い手の確保・育成、新技術や優良品種の導入、機械作業の共同化等の取り組みが大切です。

また、効率的な経営を進めていくためには、樹園地が小区画で不整形な園や、多品目の果樹が混植している園を改善するとともに、遊休農地等を活用した基盤整備を行うことが必要であり、併せて農作業の効率化や品目別の団地化等を図るための地域内の話し合いが大切です。

これらの取り組みを後押しするため、峡東農務事務所では、平成19年度に樹園地整備推進プロジェクトチームを設置し、果樹産地再生への取り組みを進めており、現在、約10地区で積極的に動き出しています。

特に、ソフト面での支援が必要な地域は、普及センターで推進プロジェクトチームを設け、現状整理や課題解決に向けた検討・協議等を進め、産地の将来像への取り組みを支援していきます。

RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI やまなし農業ルネサンス

普及センターの活動報告

●中玉トマト「華雅」

●現地講習会

高品質な中玉トマト生産を支援

「中北地域普及センター」

北杜市高根町は、品質の高いトマトを育む八ヶ岳南麓の夏季冷涼な気候を活かして、関東でも有数の中玉トマトの生産地になっています。

主力品種は「華雅（ハナミヤビ）」で、16戸の生産農家は、生産段階から流通段階まで、トマトの情報を消費者に公開する「全農安心システム」を導入し、安全、安心なトマトづくりにより、消費者と生産者の信頼関係の強化に取り組んでいます。

JA梨北高根支店中玉トマト部会と中北地域普及センターは、土壌分析・施肥指導をはじめ、栽培管理講習会、出荷目あわせ会などにより、一層の生産技術の向上を図っています。

●ナス栽培ほ場での研修

●初心者を対象にした講義

地域の担い手育成に向けた取り組み

「峡南地域普及センター」

峡南地域普及センターでは、農産物の栽培技術を高め、農産物直売所への出荷販売に意欲的に取り組もうとする方々を対象として、農業セミナーを開催しています。

セミナーは、初心者向けに土づくりや病害虫防除、栽培管理などの基本的な技術の習得を図るための「基礎から学ぶ農業セミナー」と、初心者向け講座を修了した方を対象とし、より実践的な農業技術を身につけるための「ステップアップ研修会」の2段階で実施しており、受講生のニーズを把握しながら、きめ細かい指導を行っています。

●現地検討会

ブドウ「シャインマスカット」を普及

Shine Muscat

●品質検討会

「果樹技術普及センター」

「シャインマスカット」は、（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が育成し、2006年に品種登録されました。

このブドウは2倍体の欧米雑種で、黄緑色、大粒（12～14g）、糖度は18～20度、GA処理により種なしとなり、皮ごと食べられます。熟期は巨峰と同時期となっています。

現在、果樹技術普及センターでは、現地栽培調査試験（平成17年度～）を実施し、品種特性の把握と栽培技術の確立を図っています。また、JA全農やまなしが主催する「シャインマスカット生産・販売会議」においては、出荷規格・販売方法などを検討するための試験販売を行っており、市場からは高い評価を受けています。

●新鮮な農産物を提供

都留市と大月市が連携した農産物直売活動の取り組み

「富士・東部地域普及センター」

富士・東部管内では、消費者の農産物に対する安全・安心志向の高まりとともに、管内でも直売所が各地に開設され、地産地消に対する気運が高まっています。こうした中、都留市と大月市では、2市2農協が合同で直売活動に取り組むことになりました。

本年は、7月から8月にかけて直売イベントを4回開催したところ、反響は予想以上に大きく、11月にも開催されることになりました。

今後、地産地消の進展とともに、地場農産物の一層の生産拡大が期待されています。

富士・東部地域普及センターでは直売活動の取り組みを積極的に支援して行きます。

●東京の市場（FAJ）で新品種をPR

アッサムニオイザクラの産地強化

「総合技術普及センター」

アッサムニオイザクラは、インドのアッサム地方原産のアカネ科ルクリア属の常緑低木です。比較的冷涼な気象条件を好むことから、富士北麓地域で20年前から栽培が行われ、地域の基幹作物として産地化が図られています。

総合技術普及センター花き専門科では、品種の多様化による産地強化を図るため、農家育種の支援に取り組んできました。　これまで、花色は白一色でしたが、白以外の異なる花色の4品種が育成され、種苗登録申請が行われました。また、農家の育成品種については、栽培技術の確立と普及を図り、富士北麓地域での生産拡大を推進しています。

さらに、花き類全体に市場価格が低迷している中で、より優位販売を図るため、県単事業「花のやまなしブランド化事業」を導入して、「富士のにおいざくら」を統一ブランドとして販売促進用のポスターやラベルを作成し、販売強化に向けた支援を行っています。

草地更新で粗飼料の高品質化を図りましょう。

「畜産技術普及センター」

●トラクターによる牧草の播種

採草地や放牧地は長い間使い続けると土壌の理化学性の劣化等により生産性が低下しやすいので、定期的な草地の更新が必要です。

畜産技術普及センターでは、放牧利用に優れたペレニアルライグラスを用いて放牧地の簡易更新法について検討し、作業が容易であることや草地の利用中断期間も短いなどのメリットのあることを確認しました。

畜産経営は、昨年来の原油高、飼料価格高騰の影響を受け大変厳しい状況にありますが、経年草地は優良品種の導入と併せて更新を行い、粗飼料の栄養価や品質を高めるとともに、安全･安心に配慮したエサづくりを行うことが求められています。

GAP（農業生産工程管理手法）を導入しよう!

「専門指導スタッフ」

GAP（Good Agricultual Practice ギャップ）とは、生産者自らが、農業生産工程の全体を見通して、農作業安全や食品安全、環境保全などの観点から特に注意すべき事項（点検項目）を定め、これに沿って農作業を行い、記録･検証し、農作業の改善に結びつけていく手法のことです。

本県においては、県とJAグループ等関係団体等が連携する中で「GAP導入推進会議」を設置するとともに、現場段階へきめ細かな対応ができるよう総合技術普及センターにGAP導入プロジェクトチームを設け、取組を開始しました。

今後は、各地域普及センター毎に、地区推進会議を設置し、研修会の開催や生産管理確認事項（チェックシート）の作成等行い、各地域、産地でのGAPへの取組を支援していきます。

平成20年度･農作業安全運動実施要領

●要 旨

近年、農業機械は、大型･高性能化等により、生産性を大きく向上させたほか、農業構造改善等に大きな役割を果たしてきました。その一方、農作業事故の危険性も増大してきています。

このため、農業機械の利用頻度が高くなることが予想される期間を重点期間として設定し、農業者の安全意識の啓発を図ります。

●期 間=平成20年10月1日から31日
●実施主体=山梨県農政部
●テーマ

農作業は、焦らず、急がず、慎重に！